



E.D.I.

環境デザイン研究所
ENVIRONMENT DESIGN INSTITUTE

基本データ

所在地／
広島県広島市南区南蟹屋2丁目3番1号

発注者／広島市

主要用途／野球場

設計／建築・外構・サイン

敷地面積／50,472.42m²

建築面積／22,964.48m²

延床面積／39,524.01m²

構造・規模／

RC造+S造+PC造 地下1階・地上7階

基本設計／

2006年 10月～2007年1月

実施設計／

2007年 2月～2007年7月

施工期間／

2007年 11月～2009年3月



2008. 01. 10.



2008. 03. 08.



2008. 04. 19.



2008. 05. 15.



2008. 07. 14.



2008. 10. 11.



2008. 10. 24.

北西方向からの定点写真

『EDI REPORT』では、竣工物件のプロジェクト概要と、設計・監理時の配慮点などについて 2009.9.01
随時、設計担当者からご報告していきます。

広島市民球場 (環境設計部：上林 功)

▶ 夢の器に詰め込んだ知恵

広島県の玄関口、JR広島駅の程近く、旧国鉄ヤード跡地に計画された広島市民球場は、最大で33000人を収容するプロ野球場です。広島市民に愛される球場を作るべく、設計段階において、あらゆる検討をおこないました。

○観客席の視線設計

臨場感を高めるため、内野観客席最前列は、グラウンドに立った選手と顔の高さが同じになるように調整しています。緩やかな勾配をもつ1階観客席は一定の角度で傾いているのではなく、上段に上がるほど角度を増やしています。グラウンドへの見下ろしは、1階観客席で0°～11°、2階観客席最上段で最大25°となります。座った姿勢での一般的な視線方向は下方15°と言われています。この場合、視野の下限は約30°となります。首を倒して見下ろさなくても、グラウンド全体が見渡せる計画とし、快適に観戦できるように視線設計をおこなっています。

○賑わいのメインコンコース

1階観客席を取り囲む1周600mのメインコンコースの中は内野で12m、外野で8mあります。国内の大型商店街の延べ長さや幅員とほぼ同規模のボリュームを確保し、多くの来場者やさまざまなイベントに対応できるようにしています。2階観客席を支えるアーチは、スカイシートなど2階跳ね出し席とバランスさせた合理的な形状となっています。広島駅前からのアプローチから連続する、巾10mの西蟹屋プロムナードと接続し、ヤード跡地全体の周辺計画とリンクさせ、回遊動線として活用できる計画となっています。

○環境を読み解いた形状

新幹線側に球場を開く構成は、新幹線から見える施設としてアピールする狙いがありましたが、設計上むしろ重要であったのは、開いていない部分をいかにして構成するかにありました。内野2階席の位置や屋根の範囲・形状は、周辺街区に対する風や音の影響を考えた形状となっています。また流線型の屋根の形状は、デザインというよりも、競技への影響と芝育成の日射量のバランスを考えながら決定しました。パフォーマンスシートはチケットの管理がしやすいことや、検討予測を超える振動や騒音が発生した場合に対応しやすいよう内野2階スタンドと切り離れた構成となっています。

○コンクリートの品質管理

永年にわたり市民に愛される球場であるためには、強固で頑丈な構造とする必要がありました。鉄筋コンクリートの寿命は60年以上といわれていますが、しっかりした品質管理をおこなわなければ、剥落やひび割れなどがおきます。新球場建設においては、コンクリートの専門家講習会を開き、ゼネコン職員や施工にかかわる職人、コンクリート工場の担当者まで集めて、コンクリート打設についての勉強会を10回程度おこなっています。コンクリートの配合から、施工時の段取りまで綿密に計画し施工にのぞんでいます。



旧国鉄ヤード跡地に建つ広島市民球場



ゲートブリッジ



賑わうメインコンコース



左右非対称な2階観客席と流線型の屋根



コンクリート打設講習会



密実に打たれたRC柱